

## 私たちの道徳の活用の仕方について いつでも・どこでも・何度でも

『私たちの道徳』は十分に使えていますか。

『私たちの道徳』には、道徳で教えなければならない内容項目（価値）が、1-(1)から4-(5)まで15項目（低学年の場合）順番に掲載されています。『私たちの道徳』の目次と『明るい心（人生）』の最終ページの配列を比較してみると、分かりやすいので、一度よく見てください。

さて、『私たちの道徳』には、読む部分と書き込むことのできる記入シート部分があります。どれだけ使っているかは、読み物部分を見ても分かりません。使っているかどうかは、書いてある内容は別として、記入シートに文章が書き込んであるか、先生の朱マルやチェックがあるかどうかで判断できます。低・中・高学年とも、それぞれ45ページほど記入できる部分があります。ですから11月末なら一年間の3分の2が過ぎており、30ページ程は書いてあっても良いと思いますがいかがですか。とても使い切れないという人、その人のために使い方を紹介します。

そもそも『私たちの道徳』は、『心のノート』を全面改訂したもので、児童生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして作成された道徳教育用教材です。「道徳教育用教材」というところが味噌です。道徳教育で使う教材ですから、道徳の時間の授業以外で使ってもいいのです。ちなみに、『心のノート』から改訂された点は、次の3点。

- ・「道徳の時間」で使うことのできる選りすぐりの読み物資料が掲載されたこと。（低学年12・中学年12・高学年13・中学校9資料）
  - ・先人等の名言、偉人や著名人の生き方に関する内容が多く取り入れられたこと。
  - ・いじめ問題への対応や我が国の伝統と文化、情報モラルに関する内容が取り入れられたこと。
- 内容が変われば、使い方も変わります。そこで、期待される活用例を紹介することにします。

### 1 道徳の授業で使う（全小道岐阜大会から）

『私たちの道徳 高学年』を中心に

- 学年 6年生（大垣市立興文小 棚橋直仁氏）
- 主題 ほんとうの自由（1-(3) 自主・自律）
- 使用した『私たちの道徳』の内容とページ数

- ・記入シート「自由だから気を付けなければいけないことは何でしょう。（P31）」
- ・資料「うばわれた自由（P34～P37）」
- ・名言「人生において何が正しいかなんて誰にも分からないのだから、自分の思うとおりに進んで、その結果を他人の責任にしないことが大切ではないかと思う。（曾野綾子）（中学校P27）」

#### ○展開

- (1) 自由とはどういうことですか。
- (2) 資料「うばわれた自由」（P34～P37）を教師が範読する。
- (3) 発問1 ジェラルルの言動をどう思いますか。
- (4) 発問2 ジェラルル王子はどんな気持ちから「固いことを言うな」と言ったのでしょうか。
- (5) 発問3 牢屋に入れられて、はらはらと涙を流す王子はどんな気持ちでしょう。（中心発問）

※話合いをさらに深めるための補助発問

- 牢を去っていくガリユの後ろ姿を見つめながら本当の自由とはどういうことだと分かったでしょう。
- (6) 自分の生活を振り返り、P31のシートに記入し発表し合う。
- (7) 曾野綾子氏の言葉（中学校P27）をもとにした自由に関する教師の説話を聞く。

この指導者は、1時間の道徳の授業で読み物資料・記入シート・名言の三つの場面で使いました。こういう使い方でも、『私たちの道徳』にある資料を価値を深めるための話合いだけで使う場合、別の資料で授業を行った上で自らの生活

と価値の関連を振り返って価値の自覚化を図る段階で記述させる場合、最後の説話や資料の学習をさらに膨らませて価値の自覚を図る補助資料として名言・名句等を使う場合など、限定した場面で使う方法もあります。もちろん、導入で記入シートを使う場合もあります。

ちなみに、この指導者は、展開の活動(7)で曾野綾子氏の言葉を引用しました。『私たちの道徳高学年』のP31にも自主・自律に関する名言は乗せられています。「自制心のない者に自由はない。

(ピタゴラス)」や「自由とわがままとの境は、他人の妨げをなすとなさざるとの間にある(福沢諭吉)」です。これの名言を利用することもできました。でも、指導者はこれらの名言を避けて、曾野氏を選びました。曾野氏の言葉の方が学級の子供に分かりやすいと考えたのでしょう。

昔から伝わる諺や名言・名句には、先人たちの知恵や生き方のヒントとなるものが詰まっています。知識として知っておくだけでも、その後の自分の生き方に生かされます。その言葉と出会った日にちと感じたことを言葉の横に記させておくことで子供の歴史を残すことができます。

## 2 教科や領域の授業で使う

『私たちの道徳 中学年』を中心に

### (1) 教科の授業で

- ・3・4年社会科「かわってきた人々のくらし」、「郷土を拓く」など郷土学習のまとめとして、「ふるさととどのような所が好きか(P159)」「ふるさとを紹介しよう(P160)」に、3・4年理科「植物の栽培」「昆虫の観察」「季節と生き物」の学習と関連させて「動植物の生命の力に驚いたことはあるか(P104)」「自然や動物等とのかかわりを振り返って書こう(P106)」に記入する。

※教科の学習内容と関連づけて活用する。

- ・問題解決場面やグループ活動で互いに協力し合って満足できる追究や活動が活動ができた時に、「友達の良いところを探してみましよう(P72)」に記入したり、「ささえ合い 助け合い(P80)」を読んだりする。

※道徳的な行為と関連付けて活用する。

### (2) 特別活動の授業で

- ・学級開きで、P6・7の「好きな遊び・得意なこと等々」に記入した上で自己紹介を行う。
- ・学級や家・地域における活動を振り返る授業で、「学校や学級している仕事を、どのようにやっていますか(P132)」「家や地域でしている仕事を、どのようにやっていますか(P133)」を記入した上で授業を行う。

### (3) 学校行事で

- ・敬老会で老人に渡す手紙を書く前に、自分の祖父母や近所の顔見知りのお年寄りへのインタビューの宿題を出し、「あなたの周りにお年寄りに、これまでにどのような仕事をしたかを聞いてみましょう(P85)」記入する。人権集会等に合わせて記入する方法もあります。

### (4) 学校生活で使う

- ・礼儀の学習後に、「礼儀名人をめざそう(P59)」に行いを振り返らせ、チェック表に記入する。

## 3 保護者と共に家で使う

- ・夏休みや冬休みに宿題で伝記を読ませ、「伝記の人物の名前を学んだことを書きましよう(P49)」に記入する。
- ・ゴールデンウィークの宿題として「次のとき、家族はどんなことを思ったのでしょうか。家族に聞いて書きましよう(P136)」を出し、父母や兄弟、同居している時は祖父母にインタビューさせ、その上で道徳の授業を行う。
- ・あらかじめ「あなたも自分の家族のことをまとめてみましょう(P139)」「あなたが家族に伝えたい気持ち・頑張りたいことを書いてみましょう(P141)」に記入させ、保護者会で親に手渡し、言葉も添えたり記していただいたりしたものを児童に手渡してもらおう。

「いつでも、どこでも、何度でも」が使い方のコツです。日付を記入させて何度も使わせることで、振り返った時に自分の成長を実感させることができます。そのためには、教師が記載内容を熟知している必要があります。こつこつと記入させ、大人になるまで保存するように指導することで自分の歴史を残させてやってください。それも先生の大切な仕事の一つです。